

# 一般部門／デザイン系

## 審査評

今回応募された作品の表現方法は、平面や立体のみならず、ポスターなど多種多様であり、デザインの幅広さや自由さを改めて感じました。作品を選出する過程において、審査の方針について色々な話をしましたのでご紹介します。

まず、新しさや独自性についてです。今まで自分がやったことのないことや、まだ人が見たことがないようなことに挑戦することが必要です。奇抜である必要はありません。少しだけ新しいことをやってみた、ということが重要です。

次に、審美性についてです。作者が大事にしていることが人に伝わるように、作品において十分に工夫されて表現されているかが重要です。それは、色や形の相互関係が協調していることに加え、色や形をうまく使って制作の意図を正しく示そうとする意思を感じられるかということです。

最後に社会性についてです。デザインは、人や環境に働きかけ、よりよくしようとする行為です。そこには、人を楽しませたり、困ったことを解決しようとする目的があります。このことから、デザインがコミュニケーションを大事にしていることがわかるでしょう。

デザイン系については、もっと色々な作品の応募があってもよいと思います。選外だった方々も、上記を参考にぜひ新たな作品に挑戦してください。

(広島市立大学芸術学部 准教授 中村 圭)